

宮城啓子教授略歴 (2012年3月末現在)

1948年(昭和23年) 静岡市に生まれる。

I. 学歴

1967年(昭和42年)3月 東京都立西高等学校卒業
1967年(昭和42年)4月 一橋大学法学部法律学科入学
1971年(昭和46年)3月 同上 卒業
1971年(昭和46年)4月 一橋大学大学院法学研究科修士課程公法専攻入学
1974年(昭和49年)3月 同上 修了
1974年(昭和49年)4月 一橋大学大学院法学研究科博士課程公法専攻入学
1978年(昭和53年)8月 カリフォルニア大学(バークレー)ロー・スクール
LL.M.コース入学(フルブライト奨学金による)
1980年(昭和55年)3月 一橋大学大学院法学研究科博士課程公法専攻単位取得退学

II. 学位

1999年(平成11年)1月 博士(法学)(一橋大学)
『裁量上告と最高裁判所の役割』(千倉書房)
1998年5月

III. 職歴

1980年4月1日—1981年3月31日 成城大学助手(法学部)

1981年4月1日—1985年3月31日	成城大学専任講師（法学部）
1985年4月1日—1992年3月31日	成城大学助教授（法学部）
1992年4月1日—2004年3月31日	成城大学教授（法学部）
2004年4月1日—2005年3月31日	筑波大学大学院教授（ビジネス科学研究科企業法学専攻）
2005年4月1日—2012年3月末日退職	筑波大学大学院教授（ビジネス科学研究科法曹専攻）

IV. 学会活動

1971年10月—現在	日本刑法学会会員
-------------	----------

V. 社会における活動等

1989年12月—1999年1月	防衛庁離職者就職審査会委員
1996年4月—2002年2月	国立大蔵病院（現国立成育医療センター）倫理委員会委員
1996年6月—2009年1月	第二東京弁護士会懲戒委員会委員
2000年1月—2004年1月	司法試験考査委員（刑事訴訟法）
2001年1月—2011年1月	防衛省防衛人事審議会公正審査分科会委員

宮城啓子教授研究業績（2012年3月末現在）

・著書・編書については『』、論文・講演録などについては「」で表記した。

I. 著書

【単著】

- 1) 『裁量上告と最高裁判所の役割——サーシオレイライとヘビアス・コーパス——』千倉書房 290頁 1998年5月

【共著】

- 1) 渥美東洋編『刑事訴訟法』青林書院 1996年5月
- 2) 田宮裕・高田卓爾編『演習刑事訴訟法』青林書院新社 1984年1月
- 3) 八木國之先生古稀祝賀論文『刑事法学の現代的展開』上 法学書院 1992年1月
- 4) 芦部信喜先生古稀祝賀『現代立憲主義の展開』上 有斐閣 1993年9月
- 5) 福田平・大塚仁博士古稀祝賀『刑事法学の総合的検討』下 有斐閣 1993年11月
- 6) 憲法訴訟研究会・芦部信喜編『アメリカ憲法判例』有斐閣 1998年7月
- 7) 八木國之博士追悼論文集『刑事法学の新展開』酒井書店 2009年10月

II. 論文

- 1) 「イギリスにおけるサーシオレイライの発展について」一橋研究1巻2号 69-82頁 1976年9月（単著No.1に収録）
- 2) 「アメリカにおけるサーシオレイライ発展の基盤」成城法学9号 85-115頁 1981年5月（単著No.1に収録）
- 3) 「上告審の取り調べ」田宮裕・高田卓爾編『演習刑事訴訟法』青林書院新社 474-480頁 1984年1月（共著No.2所収）
- 4) 「合衆国最高裁判所におけるケース・セレクションの研究(1)」成城法学16

号 99-120頁 1984年3月

- 5) 「合衆国最高裁判所におけるケース・セレクションの研究(2)」成城法学17号 169-197頁 1984年7月
- 6) 「サーシオレイライ拒絶の意味について」ジュリスト827号 79-84頁 1984年12月 (単著No.1・共著No.6に収録)
- 7) 「効果的な弁護を受ける権利」ジュリスト851号 132-136頁 1985年11月 (共著No.6に収録)
- 8) 「刑事上訴としてのヘビース・コーパス」成城法学25号 35-103頁 1987年7月 (単著No.1に収録)
- 9) 「『予防的ルール』とヘビース・コーパス」一橋論叢98巻5号 109-126頁 1987年11月 (単著No.1に収録)
- 10) 「精神異常者の自己負罪供述の任意性について」ジュリスト911号 96-100頁 1988年6月 (共著No.6に収録)
- 11) 「サーシオレイライと合衆国最高裁判所の役割」成城法学36号 1-41頁 1990年12月 (単著No.1に収録)
- 12) 「職権調査の限界」刑事訴訟法の争点〔新版〕(ジュリスト増刊) 244-245頁 1991年6月
- 13) 「サーシオレイライの許可基準」成城法学38号 21-38頁 1991年12月 (単著No.1に収録)
- 14) 「判例の産出とサーシオレイライ」八木國之先生古稀祝賀論文『刑事法学の現代的展開』上 法学書院 556-575頁 1992年1月 (共著No.3所収、単著No.1に収録)
- 15) 「ヘビース・コーパスに関する一考察——レンキリスト・コートにおける cause and prejudice 基準の拡張——」芦部信喜先生古稀祝賀『現代立憲主義の展開』上 有斐閣 823-849頁 1993年9月 (共著No.5所収、単著No.1に収録)
- 16) 「上告受理制度の趣旨と展望」福田平・大塚仁博士古稀祝賀『刑事法学の総合的検討』下 有斐閣 723-742頁 1993年11月 (共著No.4所収、単著

No.1に収録)

- 17) 「裁量上告と最高裁判所の役割」 刑法雑誌37巻3号 16-30頁 1998年4月
- 18) 「訴訟構造と手続理念」 現代刑事法創刊号 101-107頁 1999年5月
- 19) 「刑事手続における弁護人の地位」 現代刑事法2号 99-103頁 1999年6月
- 20) 「刑事手続における検察官の地位」 現代刑事法4号 86-91頁 1999年8月
- 21) 「『公平な裁判所』」 現代刑事法7号 115-119頁 1999年11月
- 22) 「捜査の意義と構造」 現代刑事法11号 100-104頁 2000年3月
- 23) 「『令状主義の精神』と証拠排除」 現代刑事法14号 107-111頁 2000年6月
- 24) 「任意捜査をめぐる問題[1]」 現代刑事法17号 109-112頁 2000年9月
- 25) 「白自と補強法則」 法学教室245号 33-37頁 2001年2月
- 26) 「任意捜査をめぐる問題[2]」 現代刑事法28号 101-104頁 2001年8月
- 27) 「裁判員制度の導入と上訴」 現代刑事法32号 57-61頁 2001年12月
- 28) 「職権調査の限界」 刑事訴訟法の争点〔第3版〕(ジュリスト増刊) 212-213頁 2002年4月
- 29) 「任意捜査をめぐる問題[3]」 現代刑事法39号 91-96頁 2002年7月
- 30) 「被疑者の取調べと白自の採取」 現代刑事法49号 106-110頁 2003年5月
- 31) 「裁判員制度と上訴審のあり方」 刑事法ジャーナル13号 8-14頁 2008年10月
- 32) 「控訴審における事実誤認の審査とハームレス・エラー・ルール」 八木國之博士追悼論文集『刑事法学の新展開』 酒井書店 115-126頁 2009年10月 (共著No.7所収)

Ⅲ. 判例評釈・解説 (すべて単著)

- 1) 「搜索・差押許可の裁判に対する準抗告(東京地裁昭和44年7月10日決定、松江地裁昭和55年5月30日決定)」 警察実務判例解説(別冊判例タイムズ10号) 185-187頁 1988年9月
- 2) 「控訴取下による訴訟終了宣言の決定に対する不服申立の方法(最高裁第三

- 小法廷昭和61年6月27日決定」警察研究59巻11号 52-58頁 1988年11月
- 3) 「逮捕の意義（大阪高裁昭和32年10月10日判決）」警察実務判例解説（別冊判例タイムズ11号）20-22頁 1990年4月
 - 4) 「攻防対象論と訴因（最高裁第一小法廷平成1年5月1日判決）」平成元年度重要判例解説（ジュリスト957号）191-193頁 1990年6月
 - 5) 「幼児の証言能力（東京高裁昭46年10月20日判決）」刑事訴訟法判例百選〔第6版〕（別冊ジュリスト119号）132-133頁 1992年11月
 - 6) 「捜索差押許可状による住居立入り方法の適否（大阪高裁平成6年4月20日第六刑事部判決）」平成6年度重要判例解説（ジュリスト1608号）171-172頁 1995年6月
 - 7) 「共犯者の自白（最高裁第一小法廷昭和51年10月28日判決）」刑事訴訟法判例百選〔第7版〕（別冊ジュリスト148号）178-179頁 1998年8月
 - 8) 「国際捜査共助の要請に基づき作成された供述書の証拠能力（最高裁第二小法廷平成12年10月31日決定）」平成12年度重要判例解説（ジュリスト1202号）188-189頁 2001年6月
 - 9) 「裁判官の忌避（最高裁第一小法廷昭和48年10月8日決定）」刑事訴訟法判例百選〔第8版〕（別冊ジュリスト174号）115-115頁 2005年3月
 - 10) 「不利益変更の禁止（最高裁第二小法廷平成18年2月27日決定）」平成19年度重要判例解説（ジュリスト1354号）221-222頁 2008年4月
 - 11) 「即決裁判手続（最高裁第三小法廷平成21年7月14日判決）」刑事訴訟法判例百選〔第9版〕（別冊ジュリスト203号）132-133頁 2011年4月

IV. その他（すべて単著）

- 1) 『『海外研修報告書』』成城教育66号 13-21頁 1989年12月
- 2) 「校外研修 刑事裁判の傍聴」成城教育70号 76-78頁 1990年12月
- 3) 「ロー・スクールと『一般教養』」成城教育90号 49-52頁 1995年12月
- 4) 「人はいつ等しいか」成城教育92号 118-121頁 1996年6月

- 5) 「近代契約理論の思想史的背景(五)自然法の伝統における不連続」(近代契約理論研究会 加藤一郎・矢崎光圀・他) 成城法学52号 229-241頁 1996年7月
- 6) 「教育研究所への階段 68」成城教育93号 120-121頁 1996年9月

V. 講演

- 1) 「感性と人権」名古屋大学(「感性に関するシンポジウム」にて) 1992年10月17日
- 2) 「法学の基礎にあるもの」都立西高等学校(「訪問講義」にて) 2009年12月12日